

我孫子市消費者の会

お知らせ

2008年10月13日 第34期 No. 7-388号

事務局 〒270-1143 我孫子市天王台3-7-1-201 和田三千代方 TEL 04-7183-1434

<http://www.abikoshi-syouthisyanokai.com/>

20年度平和事業 広島を見た中学生が語る 平和の尊さを！

平和を祈るコンサート

11月22日(土) 13:30～

けやきプラザ・2Fふれあいホール

毎年、中学生の報告は市民に感動を与えています。広島で何を見、何を感じたか、それをこれからの生活にどう活かしていくのか。中学生の生の言葉を是非お聞きください。

第2部のコンサートは「平和の風ライブ！」丸山祐一郎さんとこやまはるこさんに、あびこ少年少女合唱団も加わって平和を祈る心を歌い上げます。

チラシを配布します。参加費500円。チケットは和田へお申し込みください。ご家族、友人をお誘いの上、多数ご参加ください。

レジ袋無料配布停止の話し合い

10月8日、クリーンセンターの呼びかけで、「レジ袋削減又は廃止(有料化)に関する意見交換会」がありました。我孫子市内5店舗と商工会、消費者の会とエコピュアあびこから3名ずつが出席しました。

クリーンセンターとしては「ごみ減量」が一番の目標、レジ袋をきっかけに消費者の生活の見直しを期待する。

消費者側は、エコバッグ持参を働きかけても限度があり、無料配布停止が一番の早道。地球環境問題も含め意識の高まっている今が、推進の時と考える。

これに対し、無料配布をしていない店舗は、

消費者はそれが当たり前とされていると。しかし、無料配布をしている店舗からは、消費者は一律ではない。やるならば我孫子市内、全ての業種の協力がなければ、実施は難しいと。

クリーンセンターとしても、今回は第一歩であり、他の業界との話し合いも含め、検討を重ねるということで終了しました。私たちも、市民へのアンケートをとるなど、意識改革へのお手伝いをする事も約束しました。

我孫子の場合は、燃やすごみをレジ袋で出していますので、これをどうするか、今後の課題でもあります。

11月定例会

11月10日(月) 13:30～16:00

我孫子南近隣センター 8F調理室
定例勉強会 10月6日に開かれた、市民活動ネットワークと市長の懇談会の中から。

クリーンフェスタ

10月26日(日) 10:00～15:00

場所 クリーンセンター

エコピュアあびこでは、生ゴミ堆肥を使った寄せ植えの指導をします。10時受付開始。傘のリサイクル、エコバッグの販売もします。

ふれあい工房の家具バザーやフリーマーケットもあります。ご家族でどうぞ。



手賀沼流域フォーラム

テーマ 「手賀沼に生命のにぎわいを

ーわたしが今できることはー

10月18日(土) 10:00~15:00 水の館3F

10:00~11:00 各地域の取り組み発表

11:00~11:30 意見交換会

11:00~11:30 ミニ講演会

「手賀沼流域の生き物」 浅間茂氏

12:00~12:30 試食 13:00~15:00 船上見学等

*美しい手賀沼を愛する市民の連合会の参加
団体の活動を知る勉強会

11月2日(日) 14:40~16:30 水の館3F

主催 美しい手賀沼を愛する市民の連合会

レジ袋に関する消連協の勉強会から

9月30日、千葉県消費者団体連絡協議会で、イオンリーテル(株)環境・社会貢献部長の高橋晋氏にお願いし、勉強会を開きました。行政の担当者にも声をかけ、6市が参加してくれました。

これを加藤マリ子さんがポイントを整理して報告してくださいましたので、記録します。是非お読みください。

* * * * *

- ・事業者、行政、消費者共に当事者意識が重要。
- ・恐る恐るの業界があるがやってみたら、何のことはなかった。

マイバッグ持参運動

1999年(3.51%) ⇒ 2005年(15.48%) ⇒ 2006年(15.30%)
⇒ 2007年(20.39%)

*スタンプカードを提示しない人は含まず

- ・スタンプカード方式は25%が限界といわれている。
- 2005年の話：生協の声かけで4割減、レジ袋5円販売で7割減、レジ袋10円販売で9割減

イオンの取り組み

- ・レジ袋の無料配布停止
- 2007年1月~東山二条(京都)
- 2008年6月：41店舗
- 2008年8月：51都市(全国の3割) 152店舗
- 京都、横浜、沖縄全県、富山全県、北海道7割、山梨、名古屋、岐阜、三重で実施
- 山形・青森も動き始めている、九州の動きが鈍い。
- *市町村の8%を超えると加速度が付くが、地域、行政に温度差がある。(全国は1785市町村)

協定の仕方

消費者・行政・事業者が1枚にサインする(事業者ごと)。

*公正取引委員会から談合とも言われ、一時苦慮。

東山二条店の場合：実施に至るまで2年半以上かかっている。

*本当に納得し、合意するまで概ね50時間かかる。50時間かければ言いたいことが言える関係になる。

(千葉県のレジ袋削減の会議 2時間×8回)

・「有料化するなら店を変える」という消費者のレジ袋に対する全国的なアンケート結果に、事業者がびびった。残ったのはイオンのみ。実証実験をする代わりに協定を結んだ。

事例1 京都(イオン1社)

- ・東山二条店：レジ5台の小規模店
- 期待は7割の減だったが、客の意識が進んでいた。実際は2割少々⇒8割減(従業員は100%持参)

<検証>

- ① マスコミがどう評価してくれるのか。⇒高い評価
- ② レジ袋が削減されているか。⇒8割減(自分の環境意識が問われる)
- ③ 客が減り、他の店にってしまうのか。⇒数ヶ月は4~5%減った。しかし、もとに戻った。

(無駄なことはやめようという意識が生まれ、生活の中の無駄を省くようになったため、作りすぎ、買いすぎを減らそうという意識が働くためだった。よその店に行ってしまうのではないことが判明した。)

<事業者としての対策>

- ・食品の廃棄は売り上げの1%以下にする。(家庭は2割といわれている。全国では700万トン=約20兆円を日本は捨てている。それを助長しているのは我々ではないかという反省)

例：大根1本100円⇒半分68円、小分けなどきめ細かな努力をする。

事例2 仙台 (4社〜イオン、生協、ヨークベニマル、モリヤ)

仙台幸町店 24時間営業

- ・4社と事業者、行政でレジ袋懇談会を開催
- ・京都是静かに行ったが、仙台はどんどん宣伝をした。

<結果>

- ・4店とも75%〜90%の削減率
- ・苦情「マイバッグを持たないことがそんなに悪いことか」と男性から言われた。⇒「レジ袋いりません」でなく「レジ袋買います」のカードを置いた。
- ・夜、土、日は削減率が落ちる。

<留意点>

- ・予告をする。客にいかに告知をするかがポイント。「レジ袋無料配布を中止させていただきます」の横断幕、「ワケル君」キャラクター
- ・レジ周りの掲示
- ・店舗の包装基準を明示する。無くせるものは無くすが、0にするものではない。(安全に持ち帰ってもらうもの、ギフト用、刺身など)

<アンケート結果>

- ・反対4% (賛成できないが買い物をする3.4%、買わない0.5%)
- ・賛成73.1% (流れで仕方がない19.5% 最小限に控える %)

事例3 伊勢市 市長先導 (スーパー20店舗 5市民団体 10商店会)

- ・削減率90% ・近隣まで刺激

事例4 富山県 知事先導 (27社 208店舗)

- ・富山市は賛成していない。ちぐはぐ。
- ・イオンは地域単位で協定。地域市町村との連携が重要である。

事例5 岐阜県 知事先導 3年以内に

- ・3年以内にレジ袋の無料配布を中止予定
- ・第1号：輪之内町〜NPO団体が署名活動、4者協定⇒近隣競って商工会も参加

事例6 名古屋方式 (220万人都市)

- ・フルメンバー (コンビニ、百貨店などすべての事業者が入った)
- ・分科会：有料化に絞ってずっと話し合いをしてきた
- ・22年に廃止すると市長宣言⇒近隣でするようになったので1年前倒しで行うことに。
- ・緑区でモデル実験 (15社、26店舗) ⇒4ヶ月で88%削減、売り上げ好調。特にドラッグストアで94%削減。

*客というのは自分の信頼する店であればきちんと向き

合ってくれる。「忘れた」というハードルを乗り越えると大したことはない。

- *納得するための時間のかけ方が左右する。
- *マスコミをうまく使う (こんなことを検討している、今はこうだと情報開示する)

<アンケート結果>

- いつも断っている 8%⇒56%
- いつももらっている 36%⇒4%
- マイバッグ持参 ⇒92%に。
- レジ袋をもらう理由：忘れた。たくさんで入らない36%⇒58% ・面倒16%⇒8%
- 有料化賛成 50%⇒69%
- 反対 19%⇒8%
- ゴミの内袋に利用 49%⇒37%

意識を変えなければというのが実際は逆である。行動があれば意識が変わる。

今後の展開

- ・関西地区が進んでいない
- ・衣料品など食品意外は次の課題
- ・ポイントを個人への還元ではなくバイオなど別の社会経費に振り向ける段階ではないか。
- ・自主的なルールを決め、一緒に取り組んでいく方が健全ではないか。

視察したドイツの例

- ・全部有料化
- ・100人に2〜3人しか袋をもらわない。
- ・自販機はほとんどない。
- ・ペットボトルを返却するとレシートが出てきて返金される。

日本は自販機が増え、ペットボトルの使用量が増えている。リサイクル率は高いが、抑制策がない。

* * * *

時間をかけても一步一步進んで行きたいと思えます。ご意見をどうぞ。

